

**令和5年度第2回千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会
議事概要**

【篠田主幹】

- ・千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会設置要領第4条第2項の規定により、座長は会議の議長を務めることとされておりますので、進行を林座長にお願いいたします。

【林座長】

- ・議題について、事務局から説明をお願いします。

【立和名室長】

- ・（事務局から資料についての説明）

【林座長】

- ・委員に意見を聞く前に提案がある。「リニューアル」というとハード面に限られる印象がある。今回の計画はソフト的な内容がふんだんに盛り込まれているので、タイトルを変えて、「リニューアル」を平仮名の「みらい」としてはどうか。

【瀬能委員】

- ・林座長の意見に賛成する。リニューアルではなく、将来構想や未来構想といった言葉を使った方がよいと思う。

【林座長】

- ・漢字が並ぶより、ひらがなやカタカナが間に入った方がわかりやすくなるので、「みらい計画」というタイトルで進めていただくと良いと思う。

【瀬能委員】

- ・5ページ目の社会情勢の変化には、自然環境の劣化や生物多様性の低下・衰退といった内容も必要だと思う。

【栗原委員】

- ・瀬能委員の言う通り、地球温暖化など自然環境のことも入れた方がよい。他にも社会情

勢の変化には、国際化やグローバル化といった内容も必要だと思う。

- ・ 社会情勢の変化は、上2行は現状が書かれており、下3行は対応策が書かれている。書き方を統一した方が良い。

【立和名室長】

- ・ 国際化など前回指摘いただいた部分が十分に反映できていなかったなので、自然環境のことも含めて盛り込んでいきたいと考えています。

【瀬能委員】

- ・ 14ページの基本理念について、社会情勢の認識が変わると、その変わった視点を盛り込む必要がある。

【林座長】

- ・ 基本理念は重要。前回、ここに半島性をつながりというキーワードを入れない方がよいということになり、文章中に入れ込んだということだが、半島性という言葉には重要な一面もあるので、どこかで語ってもらうとよい。
- ・ 14ページの一番上に、自然と歴史、文化を扱うと書かれており、文化が入ったのは非常によかった。ただ、その分、自然が薄くなってしまわないように。

【駒見委員】

- ・ 社会情勢の変化に価値観・ライフスタイルの変化が入っているので、多様な人たちを包摂していくという視点があつた方が基本理念に入っていた方がよい。

【亀田委員】

- ・ 基本理念とめざす姿には、社会情勢の変化を受け、県内外を含めた人々に博物館をどのように使ってほしいのか、博物館に関わる人や社会がどうなることを目指すのか という視点が必要。今は博物館がどうなりたいかという視点しかない。
- ・ 博物館が社会の中でどのような役割を果たしていくのかがわかるように、14ページ、15ページに入れ込んでいくとよいと思う。

【立和名室長】

- ・ 社会課題の解決という視点は大切だと思いますので、博物館とも話して検討していきます。インクルーシブの視点も入れるよう見直したいと思います。

【染川委員】

- ・基本理念の3つの柱のうち「ホンモノを大切にする」という言葉があるが、ホンモノという言葉に博物館の解釈が入ってしまっている。事実と実物を集めて研究し、考察するのが博物館の姿なのに、ホンモノは何かを博物館側が定義してしまうように見えるので、ホンモノと書くことには反対。
- ・説明文にあたるものを掘り下げていくと、亀田委員から指摘のあった博物館が今の千葉や世界や社会の情勢をどう捉えて課題として持ち上げていくのか ということが見えると思う。

【瀬能委員】

- ・ホンモノという表現は変えた方がよいと思う。本物という実物をイメージするが、写真などのデジタル的なものも大切な資料なのに、それは必要ないのかとなってしまう。博物館が大事にしないといけないのは資料。資料の中には、実物もレプリカもデジタルも必要だと思う。
- ・理念を3つに分ける必要はないのではないか。「見つけ、伝え、残す」で全て包含されているように思う。

【栗原委員】

- ・ホンモノの部分は、資料をしっかりと保存して後世に残すという意味なのではないかと思う。資料を後世に継承するといった表現にすれば矛盾はないように思う。デジタルの話は、真ん中の「おもしろいを届ける」に入っている。

【亀田委員】

- ・ホンモノの部分には、資料や実物以外にフィールド（現場）を大事にするという意味も含まれていると思う。どのような文言が適切かは検討が必要だが、デジタルだけ扱えばいいというわけではなく、本物の資料にも興味をもってほしいというのは博物館として大事なので、この視点は入ってほしい。
- ・真ん中の「おもしろい」がひっかかる。エンターテイメント的になってしまっただけではない。博物館的な面白さとは、新たな発見があるといったことやさらに調べてみたくなる とかそういうことだと思うので、言いたいことはわかるが文言は検討した方がよい。

【立和名室長】

- ・この3つの分け方について少し補足しますと、千葉県のことをやる、千葉を離れて世界

的なこともやって県民や来館者に伝える、現場主義というイメージで3つにカテゴライズしました。ただ、委員の方々の御指摘の通り、ホンモノや面白いではその意図を説明しきれていないように感じました。

【林座長】

- ・科学のおもしろいを届けるというのはどうだろうか。

【栗原委員】

- ・「おもしろい」とか「ホンモノ」はかなり広い意味で包括的な言葉で使っているのではないか。それであれば、もっと大きく包括している「見つけ、伝え、残す」という言葉でも伝わるかもしれない。
- ・12ページのこれからの中央博物館にテーマや役割、特色と基本理念がどのようにリンクするのかわかりにくい。誰に対して、どういうものを使って、どうしていくのか、それが社会にどのような影響を及ぼすのかがわかるように、簡潔なミッションを掲げるとわかりやすいのではないか。

【瀬能委員】

- ・13ページのピラミッドの図だが、基本理念が目的になっているように見える。基本理念は博物館を支えるものなので、順番が逆ではないか。何が土台で何か目標かわかりにくい。
- ・計画は10年間とあるが、博物館は10年では終わらず、未来永劫続いていかないといけない。計画の10年は基礎作りだと思うので、このスパンは事業目標に対するものではないか。

【亀田委員】

- ・基本理念やミッションを作るのは大変。確定させるのが難しければ、当面はこの理念で走り出してみるのありだと思う。5年経つと社会情勢も変わるので、途中途中で見直し、微修正していけるのもよいのではないか。

【林座長】

- ・確かにピラミッドは順番が逆だと思う。基本理念が土台にくるべき。ピラミッドにしないとダメか。順番は間違っていないと思うが、ピラミッドは違う。
- ・基本理念は底辺にあるもの。基本理念がころころ変わることはなく、色々変わっていく

のは実施計画で、理念は上にないといけないわけではない。

【亀田委員】

- ・ 基本理念、めざす姿、取組の方向性、事業目標のつながりがわかりにくいのが問題ではないか。

【赤池課長】

- ・ 中身も含めて樹形図に沿ったものに整理します。

【立和名室長】

- ・ 見直しも含めて10年間というくりにしましたが、見せ方は検討します。

【栗原委員】

- ・ 千葉県は在留外国人が人口の3%で、都道府県別でみると6番目。そういう方の多くは労働者で博物館にきていないのではないかと思う。これから在留外国人は増えると思う。ただ単に多言語化すればいいというものでもなく、英語ではなく、わかりやすい日本語を使うなどの工夫が必要。
- ・ インバウンドの視点からでも都道府県別で7番目。

【駒見委員】

- ・ 18ページの展示・教育普及の情報と人をつなげる部分に「誰もが」という一言に全て含まれているのだと思うが、在留外国人というように具体的に書いた方がよい。

【瀬能委員】

- ・ 積極的にやらなくても、今後翻訳機能等は発展していくと思うし、技術革新で追いついてくる部分があると思う。むしろ通信環境を強くすることの方が大事だと思う。

【立和名室長】

- ・ いずれにしろ、そもそもの日本語がわかりやすすくないと翻訳のしようもないので、そのあたりは対応していきたいと思います。

【瀬能委員】

- ・ 16ページ以降について質問。地域をつなげるの②の博物館と地域をつなげる だが、

博物館は公立と私立だけか。海外の施設や県外の施設は対象にはならないのか。

- ・調査研究も同様で、全国レベル、国際レベルのこともやるということが担保されないといけないと思う。

【立和名室長】

- ・修正します。

【瀬能委員】

- ・地域連携、地域振興、デジタル化は個別に1つ1つ入れてあるが、全てに関わるものではないのか。バッジがついていないものは関係ないということか。いちいち入れる必要はないのではないか。外に出してしまった方がわかりやすい。

【立和名室長】

- ・バッジについては、考え方として入れているだけで、このまま残していくわけではありません。今後文章化していく際に、11ページの図に基づいて入れていきます。

【林座長】

- ・地域が指すものは千葉だけだろうか。情報や人は広くつながる。千葉県を1番にするのはもちろんだが、日本国内、世界とのつながりをもう少し考えた方が良い。国際的な視点が足りない。

【栗原委員】

- ・地域をつなげる部分でMLA連携という言葉があるが、一般の方にはわからないと思う。
- ・MLA連携だと公民館が入らない。また、スポーツ・文化局なのにスポーツが出てこないが、これは問題ないか。

【駒見委員】

- ・18、19ページで検討してほしいことがある。人材の育成とあるが、職員の育成だけでなく、学芸員の養成等もいれてほしい。

【阿児委員】

- ・養成部分はとても大事。新たな人材育成とスキルアップという視点をいれてほしい。

【立和名室長】

- ・入れていきたいと思います。

【瀬能委員】

- ・理想はわかるが、実際には難しいのではないかと。学芸員は専門性を重視して採用しており、資料収集も調査研究もエネルギーが必要なもの。さらに新しいスキルを求めるのは過剰だと思う。運営方針にいれるのであれば、そのような専門性のある人材を採用すべき。

【林座長】

- ・デジタル化などは必要なことになってくるので、どのようにやっていくかは検討した方がよい。ただし、ここで計画に記述しておかないと実現できなくなる。

【栗原委員】

- ・国立科学博物館でもデジタル人材を採用するのは難しい。人件費がないと優秀な人材はこない。

【瀬能委員】

- ・役割分担が大事。学芸員はデジタルのもとになるものを集めるが、それを発信するのは別ではないか。

【立和名室長】

- ・現在は学芸員と行政職員しかいないので、今後はデジタル人材等内容にあった人材の採用も考えていく必要があると思います。

【亀田委員】

- ・16ページから19ページの内容を全て実施するのは大変。おそらく10年間で一斉にはじめるのではなく、段階的に検討を交えながら実施していくものもあると思う。10年間のロードマップは別に作ったほうがよい。
- ・13ページに書かれている、実施計画（直近5年間）と施設整備計画について触れられていないが、これらをどのように進めていくかがわかるとよい。

【立和名室長】

- ・実施計画を別途作成しています。

【阿児委員】

- ・パブリックコメントを実施すると思うが、MLA 連携といった専門用語についてわかるように補足資料が必要だと思う。

【立和名室長】

- ・準備します。

【瀬能委員】

- ・この計画に盛り込めということではないが、実際に進めていく際には評価が行われていくと思う。評価の際にどういう項目をどこまでやればよいのか、初めにゴールを見据えておく必要がある。

【立和名室長】

- ・現在、内部評価は行っていますが、県立博物館の在り方の検討が始まった際に外部評価を中断してしまっています。評価については、この計画と併せて検討を進めているので、今後委員の先生にも御意見を伺いたいと思っています。